

第IV部門

「だるい」空間 ～鉄道駅ホームを対象として～

大阪工業大学工学部 正会員 ○石濱 啓悟

大阪工業大学工学部 柴田 敦詞

大阪工業大学工学部 正会員 田中 一成

大阪工業大学工学部 正会員 吉川 眞

1. はじめに

「だるい」という言葉は、現代多くの場面で使われる言葉である。この言葉は、本来であれば、体調が優れない場合に用いられる言葉であるが、近年では本来の言葉の意味とは異なる場合に使用されることが多い。

ある空間に対して快適や不快と覚えることがあるが、実際にはこの2つの場合だけではなく、そのどちらでもない空間が存在している。普段あまり意識しない空間や、物足りなさや期待はずれと覚える空間などが例としてあげられる。しかし、快適と不快の間の空間、もしくはそれ以外の空間に、人々が「だるい」と覚える空間が存在するはずである。

多くの施設では、不快な箇所を快適なものにするための工夫や改善がなされている。しかし、人々が「だるい」と覚えるような物足りない箇所は目にとまるのが少ないといえる。本研究では、多くの人が集まる駅のホームを対象とし、「だるい」と覚えられる空間に着目する。その空間を見つけ出すことで、よりよい駅空間の創出へと繋げることができるのではないだろうか。

2. 研究の目的と方法

物足りない空間には、普段から意識するものや、意識まではしないが行動に表れるような空間が存在する。本研究では、その物足りない空間などを「だるい」という言葉を使い、今までとは違った視点から見つけ出すことを目的とする。

「だるい」という言葉は、年齢や性別によって意味合いが異なる場合や意味が通じない場合がある。まず使用例を明確にするために、日常生活と対象空間での使用例や類義語などから、言葉が持つ意味を検討する。そして、現代で使われる言葉として「だるい」という言葉の定義付けをおこなう。本研究で対象とする駅空間について、利用者が重要視していることを現地調査やアンケート調査をおこない、「だるい」に関係すると考えられる要素を把握し、空間評価をおこなう。

3. 対象地

本研究では、予備調査の対象地として京阪樟葉駅（大阪府枚方市）を対象とした。樟葉駅では、10年で二度のリニューアルがおこなわれている。さらに、本調査では、京阪北浜駅と京阪淀屋橋（大阪市中央区）を対象地とした。予備調査の結果より比較するために対象とする駅が2駅必要ということのみいだしたことで、また、利用者がどの駅で降車するかを把握するために終着駅とその前の駅を対象地とした。

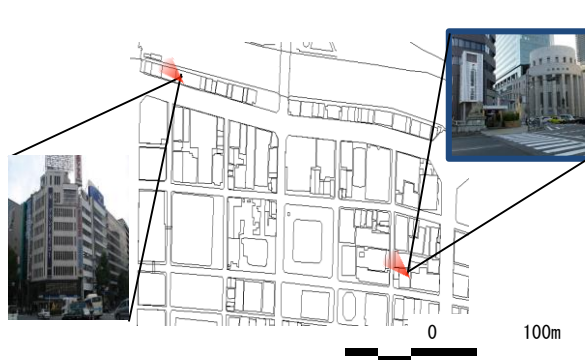


図-1 対象地

Keigo ISIHAMA, Atushi SHIBATA, Kazunari TANAKA and Shin YOSHIKAWA

Kig5@softbank.ne.jp

4. 空間の評価

本研究では、駅空間に得点を与え、空間の特性を評価する。空間を評価するために、駅ホームの図面にグリッドを作成し、予備調査の結果より抽出した項目ごとのグリッドに対して得点を与える。アンケート調査により各項目の重み付けをおこなう。ここで、数式で算出された値が高いほど快適となり、低いほど不快となる。そして「快適」、「不快」、中間の「だるい」という空間を数量化することで空間の評価をおこなう。駅ホームの空間を把握するために、それぞれの要素の得点を分布図にした。

5. 結果と考察

分布図の結果と比較するために、それぞれの得点の範囲内に利用者が何人並んでいたか（電車を待っていたか）を観察した。その結果、得点の高い空間に並ぶ人が多くみられた。しかし、時間が経過するにつれて、得点の低い空間にも並ぶ人がみられた。これは、人の密度が高くなったことにより、後から並ぶ人がその空間を避けて、他の場所に並んだ結果と考えられる。空間に大きな影響を与えている要因は、「階段から乗車位置までの距離」、「電光掲示板の位置」、「障害物の有無」などが考えられるが、得点が高い空間ではない空間に仕方なく並ぶ場合、あるいは、得点が高い空間が低い空間へと変化する可能性が見出された。

表-1 空間評価の項目

①まわりにいる人の数
②その列に並んでいる人の混み具合（密度）
③列の長さ
④電光掲示板が見えるかどうか
⑤障害物の存在が近くにあるかどうか
⑥天気によって左右されない（雨や日光）
⑦ホームが清潔
⑧匂い（タバコなどの悪臭など）がない
⑨乗車する駅の改札からの距離
⑩降車位置から自分が出る改札口までの距離
⑪売店の近くかどうか
⑫エスカレーターの近く
⑬乗り場ごとのホームの狭さ
⑭階段の近く
⑮乗車する列車に優先座席があるかどうか
⑯騒音
⑰エレベーターまでの距離

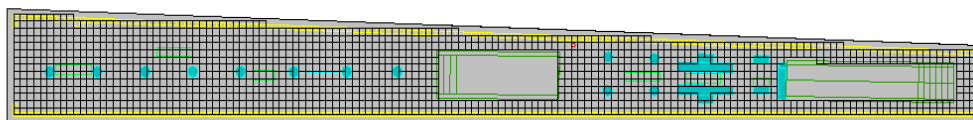


図-2 対象地区（京阪北浜駅）

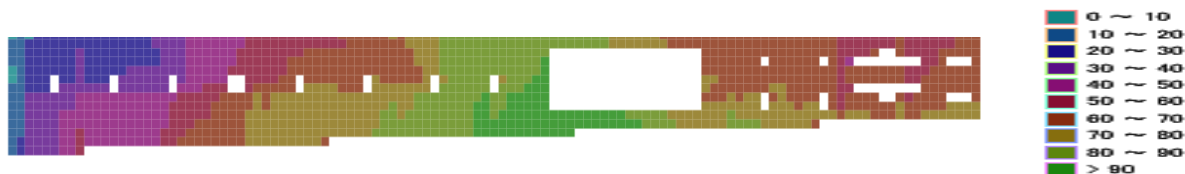


図-3 空間評価の得点分布

表-2 利用者（頻度）

得点範囲	頻度
0~10	0
10~20	0
20~30	2
30~40	3
40~50	4
50~60	10
60~70	10
70~80	9
80~90	12
90~100	10

6. おわりに

現代社会で広い意味を持つと考えられる「だるい」という言葉を明確化することで、駅空間の快適でも深いでもない空間を把握した。今後は、他の対象駅や、施設について考慮する必要がある。また、「だるい」と関係のある言葉や空間要素が本研究で使用したもの以外にあるかどうかなどより明確にしていきたい。